

令和5年9月14日
水管理・国土保全局

令和5年防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞者が決定！ ～国土交通省関係では、1個人及び15団体が受賞～

令和5年防災功労者内閣総理大臣表彰[※]の受賞者（11個人、37団体）を内閣府において決定しました。このうち、豪雨災害に対する水防活動、土砂災害防止活動、緊急災害対策活動（TEC-FORCEによる被災自治体支援活動）に著しい功績があったとして、国土交通省の活動に関係する1個人及び15団体が表彰されることになりました。

なお、表彰式の日程等については、内閣府から別途発表があります。

※ 防災功労者内閣総理大臣表彰は、『「防災の日」及び「防災週間」について』（昭和57年5月11日閣議了解）に基づき、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象として行われるものです。

国土交通省関係の受賞者（1個人及び15団体）

（1）水防活動関係・・・12団体

[災害現場での顕著な防災活動]

（令和4年7月14日からの大雨）

- おおさきし
・大崎市消防団 <宮城県>
- わくやちょう
・涌谷町消防団 <宮城県>
- みさとまち
・美里町消防団 <宮城県>

（令和4年8月3日からの大雨）

- つるたまち
・鶴田町消防団 <青森県>
- ひろさきし
・弘前市消防団 <青森県>
- おおだてし
・大館市消防団 <秋田県>
- むらかみし
・村上市消防団 <新潟県>
- こまつし
・小松市消防団 <石川県>

(令和4年台風第14号)

- ・ ゆふし 由布市消防団<大分県>
- ・ みやこのじょうし 都城市消防団<宮崎県>

(令和4年台風第15号)

- ・ いわたし 磐田市消防団<静岡県>
- ・ しまだし 島田市消防団<静岡県>

(2) 土砂災害防止活動関係・・・1個人及び1団体

[防災体制の整備]

- ・ 国立大学法人広島大学 名誉教授
かいぼり まさひろ 海堀 正博 <広島県>

[災害現場での顕著な防災活動]

(令和4年8月3日からの大雨)

- ・ むらかみしこいわうちく 村上市小岩内区<新潟県>

(3) 緊急災害対策活動関係(TEC-FORCEによる被災自治体支援活動)・・・2団体

[災害現場での顕著な防災活動]

(令和4年8月3日からの大雨・令和4年台風第14号)

- ・ 国土交通省 緊急災害対策派遣隊

(令和4年8月3日からの大雨)

- ・ 国立研究開発法人土木研究所 緊急災害対策派遣隊

【問い合わせ先】国土交通省 水管理・国土保全局 代表 03-5253-8111

(1) 水防活動関係

河川環境課 水防企画室 金子、関澤 (内線 35452, 35455)
直通 03-5253-8460

(2) 土砂災害防止活動関係

砂防部 砂防計画課 須藤、市村 (内線 36122, 36165)
直通 03-5253-8466

(3) 緊急災害対策活動関係 (TEC-FORCE 関係)

防災課 災害対策室 小林、松葉 (内線 35822, 35824)
直通 03-5253-8461

功 績 概 要

(1) 水防活動関係

団体〔災害現場での顕著な防災活動〕

(令和4年7月14日からの大雨)

名 称	大崎市消防団
所在地	宮城県大崎市
代表者	団長 内海 啓二
功績の概要	令和4年7月14日からの大雨に際し、令和4年7月15日から7月17日にかけて、延べ1,078名が出動し、水防工法（積み土のう工及び月の輪工）の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、人命救助等の水防活動を行った。 平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	涌谷町消防団
所在地	宮城県遠田郡涌谷町
代表者	団長 田村 敏幸
功績の概要	令和4年7月14日からの大雨に際し、令和4年7月16日から7月17日にかけて、延べ200名が出動し、水防工法（積み土のう工及び月の輪工）の実施、河川等の警戒巡視、排水活動等の水防活動を行った。 人的被害を出すことなく、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	美里町消防団
所在地	宮城県遠田郡美里町
代表者	団長 木村 常雄
功績の概要	令和4年7月14日からの大雨に際し、令和4年7月16日から7月18日にかけて、延べ166名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、人命救助等の水防活動を行った。 1人として人的被害を出さず、平時における住民への水防意識の普及もあり、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

(令和4年8月3日からの大雨)

名 称	鶴田町消防団
所在地	青森県北津軽郡鶴田町
代表者	団長 下山 正彦
功績の概要	令和4年8月3日からの大雨に際し、令和4年8月9日から8月12日にかけて述べ373名が水防活動に出動した。鶴田町では、堤防整備中で一部堤防が低い箇所があり、当該箇所への積み土のう工を的確に実施したことで岩木川の氾濫を防いだ。 また、河川等の警戒巡視、排水活動等の水防活動を実施したことにより、1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	弘前市消防団
所在地	青森県弘前市
代表者	団長 久保 順一
功績の概要	令和4年8月3日からの大雨に際し、令和4年8月3日から8月15日にかけて延べ422名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導等の水防活動を行ったことで、一人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	大館市消防団
所在地	秋田県大館市
代表者	団長 武田 博康
功績の概要	令和4年8月3日からの大雨に際し、令和4年8月3日から延べ226名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導等の水防活動を行い、一人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。 その他にも倒木の安全管理、橋梁の警戒、断水地区への給水などの活動を行った。

名 称	村上市消防団
所在地	新潟県村上市
代表者	団長 大竹 憲一
功績の概要	令和4年8月3日からの大雨に際し、令和4年8月3日から延べ約2,600名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、救助等の水防活動を行った。 大規模な災害にもかかわらず人的被害は負傷者1名にとどめるなど、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。 その他にも、土砂や流木の撤去等に取り組んだ。

名 称	小松市消防団
所在地	石川県小松市
代表者	団長 小林 彦幸
功績の概要	小松市消防団は、令和4年8月4日に南加賀地域を襲った豪雨の際、延べ835名が出動し、豪雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり、市内の巡視を行い、土のう積み工の水防工法により浸水による被害を未然に防いだ。 その他、住民の避難誘導、人命救助活動等の水防活動を行い、被害の軽減に多大な貢献をした。

(令和4年台風第14号)

名 称	由布市消防団
所在地	大分県由布市
代表者	団長 甲斐 敦
功績の概要	令和4年台風第14号に際し、令和4年9月17日から9月22日にかけて延べ378名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、人命救助等の水防活動を行った。 1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	都城市消防団
所在地	宮崎県都城市
代表者	団長 田中 富士夫
功績の概要	令和4年台風第14号に際し、令和4年9月17日から9月19日にかけて、延べ1,549名が出動し、河川等の警戒巡視、住民の避難誘導等の水防活動を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。 その他にも、冠水した道路の交通規制や倒木等の危険除去作業等の活動を行った。

(令和4年台風第15号)

名 称	磐田市消防団
所在地	静岡県磐田市
代表者	団長 門奈 良則
功績の概要	令和4年台風第15号に際し、令和4年9月23日から延べ653名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、人命救助等の水防活動を行った。 1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。 その他にも、土砂撤去等の災害復旧支援活動に取り組んだ。

名 称	島田市消防団
所在地	静岡県島田市
代表者	団長 藤原 達郎
功績の概要	令和4年台風第15号に際し、令和4年9月23日から延べ772名が出動し、積み土のう工の実施、河川等の警戒巡視、排水活動等の水防活動を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。 その他にも、土砂災害被害を受けた建物や道路について、地域住民と協力して土砂撤去作業等に取り組んだ。

(2) 土砂災害防止活動関係

個人 [防災体制の整備]

氏名	海堀 正博
職業	国立大学法人広島大学名誉教授
功績の概要	<p>氏は広島大学において、永年にわたり砂防学にかかる多数の研究業績をあげたほか、地域住民の防災活動にかかる草の根支援や指導など地域に根ざした土砂災害対策に尽力し、地域防災における大きな成果をあげた。</p> <p>特に、フィールド調査を中心に多くのデータを蓄積し、崩壊や土石流等の集中発生誘因となる豪雨について、雨量だけでなく降雨パターンの重要性を指摘するなど多くの論文を学術誌に投稿しました。これらの研究成果は高く評価され、他の関連する研究や行政等による防災実務において広く反映、活用されることで、実学としての砂防学の発展に大きく寄与している。</p> <p>また、国土交通省や広島県を中心に数多くの委員会等に参加し、最新の研究成果や高度な知見をもとに、技術的、学術的な面からの確かな助言、指導を行うなど砂防行政においてより効果的な施策を立案、展開するため多大なる貢献があった。</p> <p>さらに大学において質の高い教育を実践し、これにより多くの優秀な砂防技術者を輩出することに貢献した。その他、各種シンポジウムや学術的な会議において基調講演を行うとともに、メディアにも積極的に出演し土砂災害にかかる講義、説明を行うなど講演や広報活動を通じて若手研究者や技術者への技術伝承にも努めている。</p> <p>加えて平成30年から令和2年までは、公益社団法人砂防学会会長として全国各地で発生した土砂災害に対する現地調査等を主導し、特に、平成30年7月豪雨災害においては、5つのチームからなる調査団を編成し緊急調査を行うとともに、これら調査に基づく緊急提言をとりまとめ、国土交通省に対して技術的な提言を行った。</p>

団体 [災害現場での顕著な防災活動]

(令和4年8月3日からの大雨)

名称	村上市小岩内区
所在地	新潟県村上市
代表者	区長 松本 佐一
功績の概要	<p>令和4年8月4日未明、新潟県村上市小岩内区内において、豪雨を主因とする土砂流出が発生し、流出した多量の土砂、流木は下流約500mまで押し寄せ、家屋6戸が全半壊、市道埋塞、田への土砂流出などの未曾有の大被害を受けた。</p> <p>村上市小岩内区区長、防災士2名及び消防団10名は、3日夜の避難指示発令を受け、地区内の公会堂に集合し対応を検討した。村上市の指定する避難所に通じる市道が土砂崩落により通行止めとなっていた状況から、地区住民に防災無線で地区外に出ず公会堂へ避難するよう呼びかけた。また、夜間で雨音が大きかったことから防災無線に気づいていない住民もいる可能性があったため、防災士、消防団は、戸別に訪問し、速やかな避難を呼びかけるとともに、体が不自由で避難に時間を要する高齢者等を援助しつつ、住民全員が公会堂や高台へ避難した。その後、地区内を流れている小岩内大沢川が水位上昇し、石がゴロゴロと流れる音が聞こえたため、下流にある公会堂は危険と判断し地区の高台へ再避難した。再避難の後に土砂、流木が人家や一時避難していた公会堂に到達したが、区長始め防災士、消防団の適切な判断や迅速な避難行動により、死者、行方不明者が一人も生じなかった。当該地区は、昭和42年の新潟県北部全域を襲った羽越水害を経験しており、当時の状況を踏まえ、今回の雨の降り方が尋常でないと判断し、早めに避難したことにより人的被害を防いだ。</p> <p>なお、当該地区では市の防災訓練時に、「声を掛け合って避難する訓練」「避難ルートの再確認」「全員避難済みかどうか確認」を併せて行い、日頃から危機管理意識を高めている。</p>

(3) 緊急災害対策活動関係

団体〔災害現場での顕著な防災活動〕

(令和4年8月3日からの大雨・令和4年台風第14号)

名称	国土交通省緊急災害対策派遣隊
所在地	東京都千代田区
代表者	隊長 高松 昭浩
功績の概要	<p>1) 令和4年8月の大雨 国土交通省緊急災害対策派遣隊は、令和4年8月の大雨による災害に際し、8月3日から31日の約1ヶ月にわたり、全国からのべ1,487名が出動し、被災自治体におけるリエゾン活動や、東北、北陸地方における被災自治体の被災状況調査、排水ポンプ車による浸水排除や浸水解消後の道路に残った泥土の路面清掃を実施するなど、被災地の復旧・復興に向けて多大なる貢献をした。</p> <p>2) 令和4年台風第14号 国土交通省緊急災害対策派遣隊は、令和4年台風第14号による災害に際し、9月15日から30日までの15日間にわたり、全国からのべ1,040名が出動し、被災自治体におけるリエゾン活動や、ドローン等を活用して道路や河川等の損壊箇所を調査し、自治体に報告するとともに、専門家による被災状況の把握、応急復旧等の技術的助言を実施した。</p>
名称	国立研究開発法人 土木研究所緊急災害対策派遣隊
所在地	茨城県つくば市
代表者	隊長 間渕 利明
功績の概要	<p>国立研究開発法人 土木研究所緊急災害対策派遣隊は、令和4年8月の大雨に対応するために、発災直後から情報収集や分析等を実施するとともにのべ3名の専門家を派遣し、一般国道の道路崩落・道路流出箇所に係る高度な技術指導を実施し、被災地の早期復旧に大きく貢献した。</p>